

「仙台市スポーツ推進計画」策定から中間見直しの経過について

1. 計画の策定

(1) 平成 14 年 10 月「仙台市スポーツ振興計画（せんだいスポーツ元気プラン）」策定

スポーツとの関わりを「する」・「みる」・「ささえる」に分け、それぞれの基本目標を掲げるとともに、参加・協働・共有をキーワードにした構想を提案。

“市民の元気をはぐくむスポーツの振興”を基本理念に策定された。

(2) 平成 24 年 10 月「仙台市スポーツ推進計画」策定

仙台市スポーツ振興計画における「する」・「みる」・「ささえる」を継承しつつ、スポーツを通じた様々な交流へのつながっていくことをめざし「ひろがる」を加えた 4 つの柱で“人とまちの元気をはぐくむ「スポーツシティ仙台」”を基本理念に策定された。

2. 中間見直しの経過

- | | |
|-------------------|--|
| 平成 27 年 12 月 22 日 | 仙台市スポーツ推進審議会内に検討委員会を設置 |
| 平成 28 年 3 月 10 日 | 第 1 回検討委員会 ・仙台市スポーツに関する意識調査について |
| 平成 28 年 5 月 18 日 | 「仙台市スポーツに関する意識調査」の実施（～6 月 3 日） |
| 平成 28 年 6 月 28 日 | 第 2 回検討委員会 ・仙台市スポーツに関する意識調査中間報告について |
| 平成 28 年 8 月 2 日 | 平成 28 年度第 1 回仙台市スポーツ推進審議会 ・「仙台市スポーツに関する意識調査」の結果報告について |
| 平成 28 年 9 月 21 日 | 第 3 回検討委員会開催 ・仙台市スポーツ推進計画（改訂版）骨子案について |

3. 今後のスケジュール（予定）

- | | |
|---------------|--|
| 12 月下旬～1 月中旬 | パブリックコメントの実施 |
| 平成 29 年 1 月下旬 | 平成 28 年度第 4 回仙台市スポーツ推進審議会 ・パブリックコメントの結果報告 |
| 平成 29 年 2 月上旬 | 第 4 回検討委員会 ・スポーツ推進計画（改訂版）最終案について |
| 平成 29 年 2 月下旬 | 平成 28 年度第 5 回仙台市スポーツ推進審議会 ・スポーツ推進計画（改訂版）最終案の確定（答申案） |
| 平成 29 年 3 月下旬 | 「仙台市スポーツ推進計画（改訂版）」の策定 |

「仙台市スポーツに関する意識調査」の結果及び計画への反映にかかる意見

第 2 回検討委員会での意見等

○ライフステージに応じた取り組みの必要性

スポーツをしない理由に「時間がない」「子育てに忙しい」、また公の施設に望むこととして「託児施設の充実」が挙げられていることから、スポーツ活動が低下傾向にある子育て世代向けの取り組みなど、ライフステージに合わせた支援が必要。

○「個」のスポーツ活動に視点を置いた支援の強化

比較的時間やお金をかけずに一人でもできるスポーツや運動のニーズが高まっていることから、自分の時間を自分のペースで活用できるようなスポーツ環境整備が必要。(例：利用時間の拡大等)

○「個」の活動から、交流拡大へつなげる取り組みの実施

手軽に身近にスポーツに親しむ環境をつくり、スポーツを始めるきっかけづくりを進めることで「個」の活動を底上げしつつ、スポーツを通じた交流の輪をひろげるといった両面からの取り組みが必要。

○潜在するスポーツ意欲を掘り起こす取り組みの検討

スポーツをしない理由の多くに「機会がない」、またスポーツをするきっかけとして「やる気」が必要との回答が多いことから、まだスポーツの潜在的な需要は多いと伺える。

スポーツの楽しさを感じられるようなきっかけづくりや、負担なく継続できるような環境の整備が必要。(例：初心者向けのスポーツ教室等の充実、利用手続きの簡略化等)

○高齢化する地域スポーツ団体への対策検討

学区民体育振興会等、地域のスポーツを活動を支える団体の構成が高齢化しており、30～40代の活動が減少することで、団体の活動が途切れてしまっている。

働く世代のスポーツ活動支援や地域活動への参加促進に向けた取り組みの強化が必要。

○大学・民間とのネットワークの拡充

大学や民間企業が有する施設の活用その他、財政面での支援、指導者等としての人材の派遣等ハード面、ソフト面の両面から大学や民間の力を活用するため、ネットワークを拡充する取り組みが必要。

平成 28 年度第 1 回スポーツ推進審議会での意見等

- 施設整備のあり方について、平成 22 年までは施設の整備計画があったようだが今後もそういった計画をしっかりと立てていかないといけないと思う。
- 「オリンピック」を契機とした取り組みについて、ロンドンオリンピックを例に挙げると、オリンピックの前後でスポーツの実施率が大きく変わることはなかった。
スポーツ実施率を上げるためには、オリンピックに頼るだけでなく、新たな取り組みを検討する必要があると思う。
- スポーツは、飽きずに長く楽しめる一方で、始めるには少しハードルが高い。スポーツを始めるきっかけを与えることが必要であり、情報発信が大きなカギとなることから、メディアの活用も含め、情報発信を工夫する必要がある。
- 親子向けの取り組みも有効と考える。「子育て世代」のスポーツ実施率の低下という結果が見られることから、そこにターゲットを絞って取り組むのもいい。
- 施策を進める上でターゲットを絞った取り組みが必要と。実施率を上げるには、「スポーツをしていない人」に焦点を置き、初心者でも気軽に始められるハードルの低い取り組みを進めることなどが有効。
- 「レクリエーションまつり」を例に挙げても、参加者から「もっと早くこのイベントの存在を知りたかった」、「もっと広報した方がいい」という声もあり、参加者の満足度が高い割に、参加者数が伸び悩んでいるのが現状。各団体でも資金が限られており、なかなか思ったようにイベントを周知できないことが課題であるため、行政から情報発信の面でもサポートがあるといい。
- 部活動の指導者が不足している。プロスポーツを 3 つも抱えているという利点を生かし、プロスポーツ球団から指導者を派遣してもらうなど、もっと地元のトップアスリートを活用するといいい。
- 施設の開館時間について。平日の日中に利用できる人は限られているのだから、施設を有効に活用し、また 30 代、40 代といった「働く世代」の忙しくてスポーツに親しむ時間のない人たちに活動場所を提供するためにも、早朝時間をはじめとした利用時間の拡大について検討することも必要。
- スポーツ機器の活用について。近年はスポーツに関してデータ分析できる機器が出てきており、自らの成果をデータ化し、数値で見られることは運動を継続する原動力にもなることから、そういった機器の貸し出しなど、特に高齢者向けにサポートすることが有効。
- ボランティアの減少が進んでいることから、もっとボランティア人口を増やし、イベントを盛り上げていく必要がある。